

# 令和8年度個別学力試験問題

## 小論文

### (教育学部初等中等教育コース)

解答時間 60分

配点 100点

#### 注意事項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入ください。
3. 解答は解答用紙の指定された場所に横書きで記入ください。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰りください。

## 問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

十九世紀ドイツの「鉄血宰相」と言われたオットー・フォン・ビスマルクが、「愚者は経験から学ぶ、賢者は歴史から学ぶ」と言ったと言われています。正確には少し違うようですが、なかなか味わいのある言葉です。

愚かな人は自分が経験したところから学ぶ。賢者はほかの人の経験、すなわち、歴史の中の誰かの成功や誰かの失敗、そういうものから学んで、自分の目の前のことに生かしていく。そういう意味の言葉です。

身近な問題を日常的にこなすためには、多くの場合、自分の経験だけで大丈夫かもしれません。しかし、身近で経験できる範囲の外側にある問題や、全く新しい事態にある問題について、考えたり、それに取り組んだりしようとすると、身近なこれまでの自分の経験だけではどうにもなりません。

たとえば、何年も商売をやっていくと、商売のこつを覚えたりお客さんとの関係ができたりします。難しい言葉も文字式も、社会も理科も、そこには不要です。しかし、ある日、「今、自分たちの市で起きている再開発計画について、商店街のみんなでも対応を考えましょう」という話になったら、商売の経験だけでは対応できません。再開発計画の書類を手に入れて目を通したり、法令を調べたり、みんなで議論をしたりすることが必要になります。それには、経験で身につけた日々の商売の知識やノウハウとは異なる種類の知が必要になるのです。日々の経験を越えた知、です。

あるいは、会社に入ってどこかの営業所に配属されて、一生懸命に頑張っていたけれど、突然、「東南アジアに行って、工場を造る責任者をやれ」とか言われた場合を考えてみてください。田舎町での営業のノウハウでは対応できません。そこでも、今まで経験で身につけたことのない知が必要になります。

ジョン・デューイという非常に有名な教育哲学者が『民主主義と教育』(岩波文庫、松野安男訳)という本の中で、次のように書いています。「経験の材料は、本来、変わりやすく、当てにならない。それは、不安定であるから、無秩序なのである。経験を信頼する人は、自分が何に頼っているのかを知らない。なぜなら、それは、人ごとに、また、日ごとに変わり、そして言うまでもなく国ごとにも変わるからである」(前掲書下巻、110頁)。ある人が経験するものは、たまたまそれであって、偶然的で特殊なものなのです。

それどころか、個人の経験というのは、狭く偏っていたりもします。デューイは、次のように述べています。「経験からは、信念の基準は出てこない。なぜなら、多種多様な地方的慣習からもわかるように、あらゆる<sup>あい</sup>相容れない信念を誘発するのが、まさに経験の本性そのものだからである」(同上)。

つまり、経験は大事だけれども、それはどうしても狭い限定されたものでしかありません。しかも、経験から学ぶというときに、経験の幅を少しずつ<sup>ひろ</sup>広げていくには結構時間がかかります。少しずつ経験を広げたり、何度も失敗したりするためには、人の人生はあまりにも時間が限られています。

むしろ、文字による情報を通して、ほかの人の成功や失敗がどうだったのかとか、ほかの人の経験がどうなのかということを学ぶのが、てっとり早く「自分の経験」の狭さを脱する道です。ここでは、単に文字の読み書きができるというだけでなく、学校で学ぶ社会科や理科、外国語や数学の知識などが役に立つはずで。何せ、学校の知は「世界の縮図」なのですから。

(出典：広田照幸、『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』、ちくまプリマー新書、2022年より抜粋・改変)

**問 1** 文章全体を 200 字以内(句読点を含む)で要約しなさい。

**問 2** 文章の内容をふまえて、身近で経験できる範囲の外側にある問題や、全く新しい事態にある問題に対応できるようにするために、どのような教育が求められると考えますか。あなたの考えを 400 字以内(句読点を含む)で書きなさい。